

2018.10.6

参謀本部の謀略放送
つねいししげつぐ
第8課・恒石重嗣少佐の活動

名倉有一

1. 概要

○はじめに

- ・ Radio Tokyo (「東京放送」)
- ・ 参謀本部の謀略放送：「ゼロ・アワー」と「日の丸アワー」
- ・ 恒石重嗣(1909 – 1996)の横顔

○開戦時の宣伝体制

- ・ 情報局(作戦を除く、宣伝全般)：「情報の大本営」
- ・ 大本営(作戦に関する宣伝)：陸軍部(=参謀本部)と海軍部(=軍令部)

○宣伝(プロパガンダ)の特徴と背景

- (1) 英国式プロパガンダ観
第一次大戦中の英国対敵宣伝秘密本部「クルーハウス」
- (2) ラジオの利用
- (3) 捕虜の利用

○活動

- (1) 大戦に伴う宣伝計画作成

(2) 米国内放送の傍受

(3) アジアの放送ネットワーク

(4) その他

○捕虜利用

(1) NHK 指導：カズンス少佐（豪）、インス大尉、レイズ中尉（米）

(2) 前線向け「ゼロ・アワー」

(3) 米国向け「日の丸アワー」

- ・文化学院⇒「駿河台技術研究所」（看板。偽装用）
「(参謀本部) 駿河台分室」（関係者の通称）
「Bunka Camp」（捕虜の呼び名）

○終戦・戦後

2. 関連年表（出典：『心理作戦の回想』ほか。なお日本放送協会を NHK と表記する）

年	月	日	事 項	ページ
1909	10	19	高知県に生まれる	カバー
1932	7		陸軍士官学校第四十四期卒。（同期に瀬島龍三）	〃
	10	25	歩兵第十二連隊付（少尉任官）	
40	6	17	陸軍大学校第五十三期卒。在満第十二師団参謀	カバー
41	11	10	大本営陸軍参謀（宣伝主任）兼報道部部員	〃

			大戦に伴う宣伝計画の陸軍案を作成し情報局に提供	7
41	12	8	開戦	
	12		国際電気通信社に米国国内の中波放送受信機製作依頼	260
42	4	18	米機の空襲を知り、独断でNHK海外局に対し非難発信を指示	362
	6	3	俘虜管理部長通牒。(将校捕虜を宣伝業務に使う根拠)	167
	8		初旬、参謀本部でチャールス・カズンスと会う	168
	9		NHK内に軍との連絡の窓口・南方室新設	111
43	3		NHK、恒石少佐指示により「前線班」編成し「ゼロ・アワー」開始	174
	6	29	ニューヨーク・タイムズに「ゼロ・アワー」の記事が掲載される	180
	9		文化学院閉校	195
	11		戸栗郁子、ゼロ・アワーに登場	178
		3	文化学院施設を利用した「駿河台技術研究所」開所式	196
	12	2	「日の丸アワー」放送開始	204
44	11	3	風船爆弾による米本土攻撃開始	253
45	3	1	中佐に昇任	
45	6	22	下旬、四国防衛の第五十五軍兵站参謀	236
	8	15	玉音放送	
	10	3	陸軍省軍務局へ転補. GHQで宣伝関係の尋問に対応(9月との記録あり)	313
	11		中旬、四国防衛軍に復帰(10月16日、四国軍管区参謀との記録あり)	314
	12	1	復員。(同月より47年暮まで、高知から東京のGHQへ23回出頭)	〃
48	9	15	「東京ローズ」裁判の証人として渡米。(49年9月29日有罪判決)	318
77	1	19	「東京ローズ」アイバ・戸栗・ダキノ夫人特赦	358
78	8	10	『心理作戦の回想』出版	奥付
96	9	19	逝去	

3. 主な参考資料

- ・恒石重嗣『心理作戦の回想』東宣出版、1978年、上記ほか。
- ・池田徳眞『日の丸アワー』中央公論社、1979年、23、32～33、74ページほか。
- ・〃『プロパガンダ戦史』〃、1981年、9、98ページほか。
- ・宮本吉夫「海外放送と情報局」『NHK戦時海外放送』原書房、1982年、184～186ページ…昭和15年末、逓信省から情報局出向。放送担当の第二部第三課長。
- ・アジア歴史資料センター「前大戦に於ける対敵宣伝の研究」Ref.14010443200。
- ・豆狸庵『善通寺俘虜収容所に於ける俘虜の全貌』1942年。(善通寺市立図書館蔵)
- ・陸軍主計中尉吉田茂『善通寺俘虜収容所 情報綴①』1942年、68ページ。(同上)
- ・『国際電気通信株式会社史』1949年、482ページ、(特許番号148378)

- ・平川唯一「海外放送のアナウンス」『放送研究』、1943年9月、33～38ページ。
- ・Ira Wolfert. Japanese Radio Attacks Morale of Men on Guadalcanal With Tales of Home Folk. New York Times. 1943-6-29.
- ・西村伊作『我に益あり』紀元社、1960年、380ページ…文化学院創立者
- ・戸部良一『外務省革新派』中央公論新社、2010年、274、280ページ…藤村信雄所長
- ・勝野金政『凍土地帯』吾妻書房、1977年、247ページ…「勝野金政 WEB 記念館」参照
- ・濱本純一『青雲白雲』濱本事務所、1986年、105～106ページ…駿河台分室警備将校
- ・山本武利『陸軍中野学校』筑摩書房、2017年、110～111ページ。
- ・小林久子『猫のしっぽ』文芸社、2003年、76、88ページ…駿河台分室職員の回想記
- ・Frank 'FOO' Fujita, *FOO*, University of North Texas Press, 1993, 245ページ…捕虜の日記
- ・『陸軍中野学校』中野校友会、1978年、140～141ページ…恒石後任一二三九兵衛少佐
- ・ドウス昌代『東京ローズ』サイマル出版会、1977年、172～176ページ。
- ・Obituary: The music of English. The Economist. 2016-10-15…「ベトナム戦争の東京ローズ、Hanoi Hannah」死去。

【近隣図書館からり寄せ（相互貸借）可能な私家版資料】

資料名	相互貸借が可能な図書館
図書：『駿河台分室物語』、 『駿河台分室物語【資料編】』	善通寺市立図書館、横浜市中心図書館、 浜松市立中央図書館、
DVD：『恒石重嗣元陸軍中佐の回想』、 『池田徳眞氏の回想』、『谷山樹三郎元陸 軍大尉の回想』および要旨	善通寺市立図書館、オーテピア高知図書館 (高知へは先月寄贈し、現在登録作業中)

※国立国会図書館（関西館を含む）：上記図書は館内利用可能。

DVDは『駿河台分室物語』の追送資料として先月納本。

4. 戦時中の関係者の回想

(1) 外務省情報部ラジオ室長・樺山資英^{ナギノ}、1943年秋ごろ
「その時樺山は恒石少佐（注。原文は変名で「恒木」。以下同じ）に関する事、対敵謀略に関する参謀本部の段取りについて彼に明かした。驚いたことには、第八課の6、7名の参謀でもっとも若い恒石少佐が敵国に対する極めて広範囲な謀略や相手の謀略に対処する唯一人の担当者なのだという。
彼は敵の放送に関する事すべてを調査、検討して上席者に報告しなければならない。同時に日本政府の放送局である NHK から発せられるすべての短波放送を陸軍の観点か

ら監督する。これら一般的な任務のほか「東京ローズ」、3名の捕虜が書き放送する解説、「淡路町事務所」でのパンフレット制作など多くの謀略活動をしている。樺山は言う。

「ほかの陸軍将校と比べれば、恒石少佐は謀略のことはるかによく理解している。しかしこれだけ広範囲な仕事を彼1人で管理するのは不可能だ。だから彼は自分の目的のため、文民(civilians)を目一杯利用することにした。それで僕に敵の放送の分析を依頼し、数人の二世には3名の捕虜を見張らせている。藤村氏には駿河台分室に謀略拠点を作らせるとともに、アメリカ西海岸に向けた新しい捕虜放送を頼んだのさ」

池田 「樺、参謀本部がこれだけ重い責任をたった1人の将校に託すとは驚いたよ」

樺山 「陸軍が自分たちの予想をはるかに超える大戦争に飛び込んでしまったからだ」

池田 「無茶な話だ」

樺山 「陸軍将校の敵の謀略全般に対する理解は、総じてお粗末^{そまつ}だ。英語はほとんど分からないが、恒石のような将校を見つけることはまず不可能だ。だから謀略の基本も知らない別の将校が、彼に代わって欲しくない」

[池田徳真『駿河台分室物語』12ページ]

(2) 東方社職員・多川清一. 1942年ころ.

「...参謀本部第八課から連絡将校として[東方社に]一番よく顔を出していたのは、恒石重嗣という参謀少佐であった。恒石は開戦直前、関東軍から参謀本部に転任してきた若手の参謀で、[写真家の]木村伊兵衛にいわせると「魚屋のアンチャン風」の、キビキビした頭の切れる将校だった。恒石は一九四五(昭和二十)年まで、陸軍の謀略宣伝の中心にいて、特に短波による対敵宣伝放送に専念した。」

[多川清一『戦争のグラフィズム』167~168ページ]

(3) 参謀本部・谷山樹三郎中尉. 1942年ころ

「恒石さんは、どちらかといえば線の細い大人しい参謀。参謀本部の他部や八課でも軍事の方に門松、尾関という二人の参謀がいてそれとの連絡がお仕事で、情報参謀としての仕事は、自分が43年秋に駿河台分室へ出るまでほとんど全部任せきり。いまでいうデスクの仕事で、朝日・毎日・読賣新聞、中央公論、改造、映画社としては国策会社の日映、情報関係では同盟通信社、日本映画社、東大の大学院、松竹、東宝も全部自分の傘下にあった。」

「海軍軍令部と外務省、大東亜省、陸軍部が定期的に虎ノ門の情報局で情報交換をしていた。そのお偉方が出席する会議へ、参謀代理としてまだ中尉の自分が出ていたが、結構意見が通った*」(*例:東宝映画「進め独立旗」は谷山だけが許可を主張し、1943年10月21日封切られた。

[2003-4-19. 福岡市南区の自宅]

(4) 文化学院創設者・西村伊作. 1943年9月

「ある日私は拘置所の特別の面会所へ連れられて行った。そこには陸軍の参謀本部から来た人がいたし、私の弁護士もいた。それは私の閉鎖された文化学院の建物を陸軍の方

へ貸せ、という交渉であった。私は閉鎖されているのであるから貸してもいいと承諾した。軍部の人は私の長男久二と交渉して、相当厳しい強い言葉で久二を脅かして、安い家賃で学校の建物を借り上げようとした。結局文化学院の建物を貸すことになって、軍部は軍の事務所を学校の建物の中に置いた。建物を引き渡すときに学校にある大切なものとか、窓かけでも何でも全部学校から五反田の家へ運んだ。」

[西村伊作『我に益あり』380 ページ]

(5) 参謀本部・濱本純一中尉. 1943年10月

「私が上海から東京へ帰った十八年十月、直属の上司恒石参謀が、市ヶ谷の料亭で歓迎の宴の席を設けてくれた。陸軍中野学校で同期の谷山中尉もこの席に加わっていた。少々酒が廻ってきたころ、私は新上司の恒石参謀には悪いと思ったが、「捕虜放送の仕事が軌道に乗ったら、もう一度私を上海へ帰してほしい」と不躰けにもせがんだ。[中略] 着任早々旧任地へ帰りたがる私を持って余し気味の恒石参謀が「一年ぐらいで元へ帰せというのは無理だがまる1年経ったら1か月の上海出張を取り計ってやろう」と約束してくれた。そしてこのときの約束は正確に果たされた」。[濱本純一『青雲白雲』90 ページ]

(6) 駿河台分室放送主任・池田徳眞. 1944年初めころ

(捕虜の毎日の食料やタバコは大森収容所から規定分が駿河台分室へ配給されていたが)「恒石少佐は、だいたい月に一回機密費のなかから五千円ずつを早坂君に渡した*。早坂君は、それでパンやジャガイモなどの主食の闇買いに苦心するとともに、機密費をもらうたびに、牛肉を買って俘虜たちのためにパーティを開いた。その当時の五千円といえば、闇の物価が驚くほど高かったといっても、まだ価値は十分にあったから(略)」

「恒石少佐は最初から「俘虜が放送に十分協力するならば、どんなに優遇しても構わない」という方針であったから、なんとか多く与えたいと考え、早坂君がタバコの特別配給をしてくれるように専売局に頼みにいった。」。[『日の丸アワー』. 77 ページ]

*「(中佐の恒石参謀の給料は)一五〇円にも足りなかった」。[『心理作戦の回想』347 ページ]

(7) 池田徳眞. 1944年ころ

「捕虜同士のけんかに加え、変なうわさが聞こえてきた。同性愛である。[中略] そこで池田は恒石少佐にこれらのうわさに付いて話したところ、軍人である彼の意見は徹底していて、「ここは道徳を教える学校ではありません。放送がうまくいきさえすれば本官は何が起きても構いません」と言った。」 [『駿河台分室物語』145 ページ]

(8) 池田徳眞. 1944年6月ころ

「第八課へ行くと、彼(恒石少佐)がそばに来て何気ない調子でこう言った。「ねえ、池田さん。ルーズベルト大統領を殺せないかな？」彼はしばらく考えた。「そんなことを私に聞くのはおかしいでしょう。暗殺は中野学校が専門でしょ」困った顔をした池田を見ながら、少佐は繰り返した。「ラジオの電波でルーズベルト大統領を殺せない？」」

[同上 226 ページ]

(9) 池田徳眞. 1945年

「ある朝、恒石少佐が池田にタブロイド番 2 ページの日本語の新聞を見せた。池田が手に取って見ると、「軍陣新聞第五十六号」とあった。(中略) 恒石少佐が言った。「これは、敵が作っている週刊新聞です。ビルマのわが方の前線に飛行機で毎週撒き^まに来るのですが、よく出来ていて感心しているのです。」。[同.188 ページ]

以上